

9-5 ESD研修会での研修の進め方の具体例

この研修の振り返り・参加者のお声とアンケートのまとめが9-4でした。



①楽しく体験的にわかる「なるほどESD講座」の始まりです。



②子どもたちの生きていく未来を危うくするような課題をテーブル毎に相談して書き出します。



③もし、あなたが文部科学大臣だったら、日本の教育をどのように変えますか。ご自分の思いを書き出してください。

④班ごとに「日本の教育をどのように変えるか、キーワードを整理・構成し、構造的にまとめます。



⑤班で相談しながら、短時間でまとめていきます。

⑥説明者を決め、どのように説明するかも決めます。



⑦回ってきた人たちに自分たちの改革案を説明します。話しているうちに、説明がうまく、わかりやすくなります。

⑧自然に拍手がわいたりします。



⑨のようにして、何回か説明をしてもらいます。班を回るときに、色々な策が示され、気づかなかった案にも触れることができます。

でも、損したような気持ちの人もいます。ずーっと説明を続けていた人です。

しかし、本当に損していたのでしょうか。この人の説明を、戻ってきた仲間に聞いてもらいます・・・。



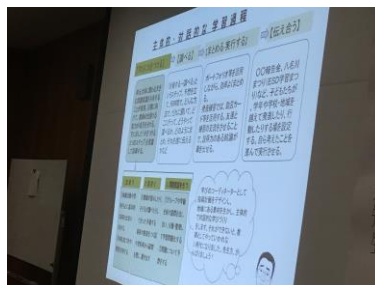
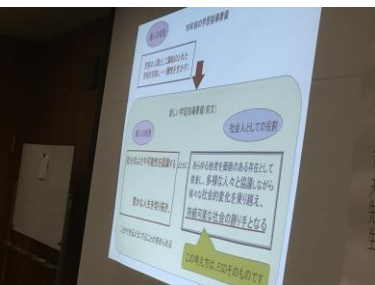
⑩すると、仲間がびっくり！自分たちの考えた改革案が、とってもわかりやすく、素敵に説明されるではありませんか！

⑪つまり、何回か繰り返して説明することで、自分の中で内容が整理され、プレゼン能力も知らないうちに高まるのです。



⑫さっきは、損した気分だった説明者の方々に聞いてみると、ご自分の成長に納得。他人に説明することで、学びが深まることをみんなで体験出来ました。

⑬時間があれば、フリーマーケットスタイルで他班のまとめの中にあつた優れたキーワードを探して、シールを貼ったりします。「いいねマーク」をつけるみたいです。



これらの活動を体験したおかげで、どのように教育改革を進めたらいいのか、自分なりの考え方や方向性をもつことができます。その視点をもって、日本の学習指導要領を読んでもみると、その優れた方向性や、取り組むべき課題が一層明確に伝わってきます。

このような学習活動なしに説明されただけですと、言葉が頭の上を通り過ぎるだけになります。また、ESDカレンダーのもつ意味や、学びに火をつける手立ても重要なものと感じられるようになるのです。ですから、研修後の感想にも納得されたお声が見られるのです。